

かを慎重にみます。大型犬の場合は、犬の飼育経験、飼育時間が確保できるか、犬との相性などをみるために、3回ほど、一緒に散歩をしてもらい、決定します。

④ 困っていることは？

闘犬が保護された時です。警察に相談し、人間を噛んだ経験などがある場合は、残念ながら、安楽死を選びます。

⑤ 散歩以外で外で鎖につながれてたり、狭い檻や柵に入れられて飼われている犬を見たことがないが、そのような行為は法律違反なのか？

散歩以外で鎖でつないで飼うことは、禁じられてます。住宅の広さによって、飼うことが出来る犬の大きさが決まっています。犬が、快適に過ごすことが出来る必要な広さの確保を徹底しています。外は寒い時期など、適さないので、外の飼育はしません。

⑥ 日本では、多くの犬猫が殺処分されています。ドイツでは、なぜゼロに出来るのですか？

とくかく、去勢・避妊で増やさないことが一番です。ヨーロッパでも、安楽死ゼロの国は、ドイツだけです。隣国のポーランド、ロシアは、増やさない（去勢・避妊の徹底）ことが、一番で、安楽死させても、減らないことにやっと気づきはじめ、ここ1、2年のうちに廃止を検討しています。スペインやイタリアは、施設に収容することが出来る数を上回った場合は、安楽死させています。

見学、質問を終えて、私は、かなりのショックを受けました。同じ先進国でも、なぜ、これほどまでに、ドイツと日本の動物愛護事情が違うのか。驚いたことのひとつには、犬猫の収容頭数が非常に少ないことです。（この日は、多くの来訪者のため、猫がストレスになるとの理由で、猫の見学は出来ませんでした）。そして、犬1匹1匹において、とても広い面積の清潔な、快適な場所で、飼育されています。（写真2A、B、C）

またドイツでも日本同様無責任な飼い主の多さ、虐待などの話が一番に出るのではと、日本の感覚で思っていました。そのようなことは一切、言われませんでした。（困難なことにあがらないほど、少ないのか、あるいは、ゼロなのかは、分



写真2B



写真2C

りませんでした。）殺処分ゼロが可能であることの理由のひとつに、動物保護施設の数に対する、収容されている頭数の少なさがあげられると思います。つまりは、人間ひとりひとりの動物飼育、動物愛護に対する意識の高さが、根本的に日本とは違うということの意味しています。人間の意識が変わらないうちは、我国、日本に例えどんなに多くの収容施設が出来ても、無責任な人間によって生じた収容しきれないほどの多くの犬猫たちで、あふれかえり、その割に殺処分の数は減らず、そして、施設がそういう人間たちの都合の良い恰好の場所になり、運営を困難にすると考えます。

日本のような先進国で、動物愛護法がなぜこんなにこんなに遅れているのか……

そして、「安楽死させても、数は減らないことに気づきはじめ、廃止する動きが出ている」と他国について話してくれた職員の方の言葉が、強く心に残りました。

根本的な解決法を考えることなく、安易な殺処分だけが依然として行われている我が国、一体、それによって何が得られるのでしょうか？不幸な動物たちが減るように、今一度、動物愛護法の厳しい改善を切望します。幸い、少しずつ改善しつつある今日ですが、近い将来、ドイツのように、殺処分ゼロになることを強く願います。